

農林水産祭天皇杯 ダブル受賞

仕事の窓

農林水産部
BUSINESS REPORT 2

明るく、豊かで住みよい、
活力ある地域づくりに精進。



平

成十七年度(第四十四回)農林水産祭において沖縄県内から二部門で天皇杯を受賞しました。

沖縄県における農林水産祭天皇杯の受賞は今回が初めてのことであり、二部門同時受賞となりました。

①「むらづくり部門」読谷村渡慶次集落のむらづくり活動

本集落は都市住民との混住化の進む中でユイマールの精神の下、生産活動、伝統芸能活動、環境美化運動などにおいて、子供達の参画を含め老若男女が一体となって取り組み、多彩なむらづくり活動を展開している。

②「蚕糸・地域特産部門」沖縄長生薬草本社の経営活動

(有)沖縄長生薬草本社は、薬用作物(ウコン、クミスクチン等)の生産、加工、製品販売までを、農事組合法人沖縄長寿薬草生産組合や(有)長寿源とネットワーク化し、経営の中心となつて売上高を伸ばしている。

両者については、その性質・内容が

抜群で広く社会の賞賛に値するものとして天皇杯が授与され、その表彰式が勤労感謝の日の十一月二十三日に明治神宮会館で行われました。

また、十一月二十五日に渡慶次集落の玉城安徳区長、沖縄長生薬草本社の下地清吉代表取締役他、多数の方が来庁され沖縄総合事務局長に天皇杯受賞を報告されました。

【受賞者の言葉】

農林水産祭むらづくり部門において、天皇杯という最高の名誉にあずかり渡慶次区民一同大きな感動と喜びに沸いているところです。今後も賞に恥じないよう「明るく、住みよい、活力ある地域づくり」に精進してまいります。

農林水産祭蚕糸・地域特産部門において、天皇杯という名誉な賞をいただき驚きと身の引き締まる思いです。今後は、安心・安全を基本に消費者に喜ばれる商品作りと、薬用作物が農業

として成り立つような生産体制を地域と共同して築いていきたい。

十一月二十七日には、渡慶次公民館において、むらづくり部門の天皇杯受賞祝賀会が行われ、その中で局長が祝辞を述べました。

【部長代読】

先祖から引き継がれてきた良き伝統文化・精神を継承し、明るく豊かで住みよい町づくりになお一層取り組みで頂き、全国のむらづくり活動のモデルとなつていただくことを期待します。

